

(その2)なぜテレビはすべてを報道しなくなったの？



(その1)で述べた**B層**のことをテレビは一切報道しませんでした。常日頃は事件や事故の報道に名を借りて人の不幸をこれでもかこれでもかとおつつきまわしたり、どうしてもよいような芸能界の馬鹿騒ぎをさも国民的関心事のようににぎにぎしく、しかも各局一斉にほとんど同じ内容で報道している各テレビ局が、報道番組でもワイドショーでも全く取り上げませんでした。

不思議だと思いませんか。

「視聴者のみなさん、あなた方が**B層**と言われて馬鹿にされているのですよ。」とセンセーショナルに騒ぎ立てれば、皆が憤慨して彼らが命より大切にしている視聴率をおおいに稼いだはずの話題を完全に無視したのですよ。

これには訳があります。

お気づきの方もいるかもしれませんが、小泉首相の時代になってから政権とマスコミの関係が変わってきているのです。今度の総選挙でもワイドショーのコメントーター達や報道番組のキャスター達が妙に政権側の肩を持つなあと感じた方も少なくないと思います。

常に権力者の横暴や暴走を監視する使命を帯びているはずのマスコミが、権力者とべったり癒着し始めているのです。特に民放テレビがひどいと言われていきます。新聞やNHKと違い、収入をすべてコマーシャル料に頼っている訳ですから、大手の広告会社を通してコントロールしやすいのかもしれませんが。



テレビ局の30代社員の平均年収が1500万円と言われてますし、あのみのもんたさんの朝のワイドショーの出演料が一説には1回300万円と言われてるそうです。もはや勝ち組のお金持ちである彼らにとって、今の地位を危うくしてまで権力と戦う気概や正義感は全くないのでしょう。

これ以外にも今のテレビでは、たくさん大切なことや権力者にとって都合の悪いことが報道されなくなっており、貴重な電波と時間を使って一日中、各局似たり寄ったりの知性や良心を腐らせてしまうような低俗な番組を垂れ流しています。

もはやテレビは害悪以外の何物でもないので、テレビしか見ていない人たちにとってはそれを見破ることはなかなか難しいのではないのでしょうか。

北朝鮮の首都に住む、地方の惨状を身近に感じなくてすむ人々は、あの朝鮮中央テレビを見ても、何の違和感も感じないのと同じことなのでしょう。

皆さん、テレビについてももう少し考え直してみませんか。

これからテレビが絶対に言わないことや言えないことをインターネットの情報を基に皆さんにお知らせしていこうと思います。